

■大伴旅人 上級官人、歌人。太宰帥となって筑紫に下った際に、山上憶良らと交流して、傑作を集中的に詠んだ。

おおとものたびと

第5回遣唐使 665= 生、長徳の孫、安麻呂の長男。母は巨勢郎女

壬申の乱・・・ 672= 7歳：

・・・・・・ 674= 9歳：

・・・・・・ 683=18歳：

天武天皇没・ 686=21歳：

・・・・・・ 692=27歳：

大宝律令・・・ 701=36歳：

持統天皇没・ 702=37歳：

平城京遷都・ 710=45歳：*正月の朝賀で、正五位上左將軍として騎兵を率いて威儀を備える。

・・・・・・ 711=46歳：従四位下に昇叙し、

日本書紀始・ 714=49歳：新羅使を迎えるための左將軍の任を果たしている。

元正天皇即位 715=50歳：従四位上へ昇叙、同年中務卿に任ぜられ、

養老律令・・・ 718=53歳：中納言に任命される。

・・・・・・ 719=54歳：*正四位上に進み、按察使制が創設されると、山背国撰官とされ、

藤原不比等没 720=55歳：隼人の乱勃発で征隼人持節大將軍に任ぜられ、征討の勞を慰問されたが、まだ完全に鎮定していないとして、副將軍以下を現地に留め、旅人のみ入京を許される。

長屋王右大臣 721=56歳：長屋王の右大臣昇任に伴って従三位に昇叙し、長屋王らとともに帶刀賫人を賜わり、元明太上天皇の大葬に當って營陵の責任者となる。

聖武天皇即位 724=59歳：聖武天皇の即位に伴って正三位に昇叙し、封戸を増し物を賜わる。

渤海交流始・ 728=63歳：*(藤原氏による長屋王打倒の一布石として)大宰帥を兼任赴任後、まもなく妻の大伴郎女が病没し、弔使が大宰府に派遣されている。その後も、有名な「酒を讀むる歌」13首を始め、「万葉集」に見られる旅人の作品は、ほとんどが大宰府に赴いてからのものである。

長屋王の変・ 729=64歳：長屋王を打倒した藤原4兄弟が、班田再分割を發令すると、

・・・・・・ 730=65歳：管下の薩摩・大隅2国にまだ班田が行なわれたことのない現状を挙げ、例外的な措置を求めた。脚に瘡を生じて病床に苦しみ、大納言に昇任して帰京。

・・・・・・ 731=66歳：*従二位となり、没した。